

家の領地が加州額田庄及び八田庄にあり、又權中納言中院通世は、永正十六年十二月廿二日加賀で薨じ、内大臣中院通爲も永祿八年九月三日加州山内で薨じたと見えることに就いて、その遺蹟を考證した短篇である。

ナカノガハ 中ノ川 ↓ゾウガハ 尾添川。

ナカノカマ 中ノ釜 珠洲郡春日野の内の小字。

ナカノゴウ 中ノ江 能美郡板津郷に屬する部落。

ナカノゴウ 中ノ郷 石川郡に屬する部落。大正十年十月來同・針道を併合して新に中ノ郷と稱した。

ナカノシマ 中ノ島 鹿島郡能登島なる久木部落の沖に在る島。

ナカノジュウイツ 中野十逸 金澤の俳人。通稱民榮。石坂角場に住し、青葉庵の號を京都から龜ぎ、又節を製造して各人といはれた。明治四十三年一月十五日七十七歳を以て歿。

ナカノシヨウ 中ノ庄 能美郡板津郷に屬する部落。

ナカノスイアン 中野隨庵 諱は資、字は士深、分岡と號した。もと石川氏。享保十九年金澤に生まれ、經義を中西鯉漢に學び、醫を岩脇願庵に受け、遂に寶曆十三年藩の老臣横山氏の侍醫となり、天明七年藩醫に擢られたが、寛政十年正月二日江戸の客舎に歿した。享年六十五。

ナカノスイアン 中野隨庵 字は子復。初稱又玄、諱は政、櫻堂と號した。歩士小頭島田方義の三子で、醫中野隨安の嗣となり、又刀圭を京師の福井楓亭に學んだ。寛政十年隨

安歿してその祿百三十石を襲ぎ、文化六年前田齊廣の侍醫となり、幸いで祿五十石を加へ、文政三年十二月廿三日歿した。享年五十五。

ナガノスエミツ 長野季光 通稱彦五郎。能登の士。正平六年(觀應二)正月得江石王丸代長野彦五郎季光の軍忠狀に、去年十月廿三日越中の敵水見渡に攻來るや石王丸の所領志雄越山を奮固して戦ひ、十一月三日敵井上布袋丸・富來彦十郎等能登富來院から出て鹿島郡花見楓に寄せ來たのを迎へ、四日敵飯田宿(羽咋郡飯山か)に陣取つたので、之を越中に追ひ、四月京都から能登に下つた守殿桃井兵部大輔義綱に隨ひ、十九日敵桃井兵庫助直信が越中から進んで鹿島郡高昌宿に陣し、十一月一日石王丸の領羽咋郡志雄保に寄せ來たのと戦ひ、十三日義綱の鹿島郡金丸城を敵が攻めたから城中より討出で、今年正月廿一日里見彦七の勢に屬して羽田城(所在不明)の攻撃に與つたとある。

ナガノダ 長野田 能美郡徳橋郷に屬する部落。

ナカノタウゲ 中ノ峠 能美郡輕海郷に屬する部落。越登賀三州志故墟考に、この村に城第というて、塹・土居の遺狀の尙存する所があると記する。城第は城屋敷である。

ナガノダカイドウバタ 長野田街道端 能美郡長野田の内の小字。

ナカノタキ 中ノ瀧 能美郡丸山の地内で、部落から東北二軒の芋谷にある。高さ二一メートル。ナカノタヒラ 中平 羽咋郡鶴野屋の内の小字。ナカノタヒラヤマ 仲平山 珠洲郡馬線の内の小字。

ナカノツウアン 中野通庵 諱は達、字は子直。隨庵の子である。文政三年父歿してその祿百八十石を襲ぎ、前田齊廣の甥後眞龍院夫人の尙藥となり、又前田齊泰に侍した。弘化元年祿五十石を益して二百三十石を受け、文久元年その子敬をして家を嗣がしめ、二年十月五日七十一歳を以て歿した。

ナカノツクヨリ 中野續從 通稱庄兵衛。明理堂と號した。寛政十年定番歩に加へられ、俸四十俵を受け、同年和田耕藏に代つて明倫堂の算學師範を勤め、文政元年御作事場の算用方主付を兼帯し、六年門弟教育の功によつて加俸十俵を受け、天保三年四月享年七十七で歿した。

ナカノハシ 中之橋 金澤橋梁記に『中の橋、長と村井の間の橋也。』とあつて、惣構堀なる倉月用水川の橋であつた。今この名を存せぬ。

ナカノマサナホ 中野正直 通稱與十郎。石黒半六の子で、中野續從の後を受け、天保四年二月御算用者に任じ、近藤信行に就きて關流の算學傳を受け、その助手として明倫堂に教授した。正直また安政四年關孝和の百五十年忌に當り、野田寺町立像寺に紀念の碑を建て、六年七月歿した。養嗣子直久その遺業を受けたが、正に明治維新に際して頭角を露すを得なかつた。

ナカノマタ 中ノ又 鳳至郡上又の内の小字。

ナガノミツノブ 長野光信 通稱左衛門四郎。能登得江石王丸の家士。正平六年(觀應二)八月得江石王丸代長野左衛門四郎光信の著到狀に、七月廿九日足利義隆が播州發向の

際之に供奉したといひ、同年十月得江石王丸代長野左衛門四郎光信の軍忠狀に、八月十八日足利尊氏・義隆江州下向の際能登の守護桃井兵部大輔義綱の軍に隨し、九月十二日北國の敵を八相山に破り、十月十四日尊氏等入浴の時亦之に供奉したとある。

ナカノヤ 中野屋 鳳至郡櫛比庄に屬する部落。

ナカノヤチ 中ノ谷内 鳳至郡寺山の内の小字。

ナカノヨウアン 中野養庵 字は則吉、諱は正。橋岡と號した。元崎田氏で中野隨庵の女婿となつたもの。醫を京師に學んで令名を得たが、文化八年八月九日廿四歳を以て歿した。

ナガノヨシキ 長野嘉樹 字は伯華。梅山又は振古齋と號した。醫を學んで古法を能くし、文化三年六月十三日歿。享年七十四。その子に高松字は茂茂があつたが、享和元年七月廿九日三十九歳にして父に先だち歿した。

ナカバサミ 中袂 鹿島郡江會郷に屬する部落。

ナカハシ 中橋 金澤橋梁記に『中橋、すぢかい橋つゞき。』とある。金澤古蹟志に、昔は折違橋と中橋の次に、前田近江守の下屋敷邊にも用水川の橋があつたが、中橋はこの三つの中間であつた爲の名稱である。延寶の金澤圖にはまだ中橋がない。それは川筋が今の如くでなかつたからであると記する。

ナカハシ 中橋 河北郡井上庄に屬する部落。ナガハシ 長橋 珠洲郡西海郷に屬する部落。